

軍艦唱歌

大槻如電先生

作青梅學校

東京音樂學校教授
東京音學校教授
東京音學校講師

山田源一郎先生作曲
野村成仁先生作曲

第一

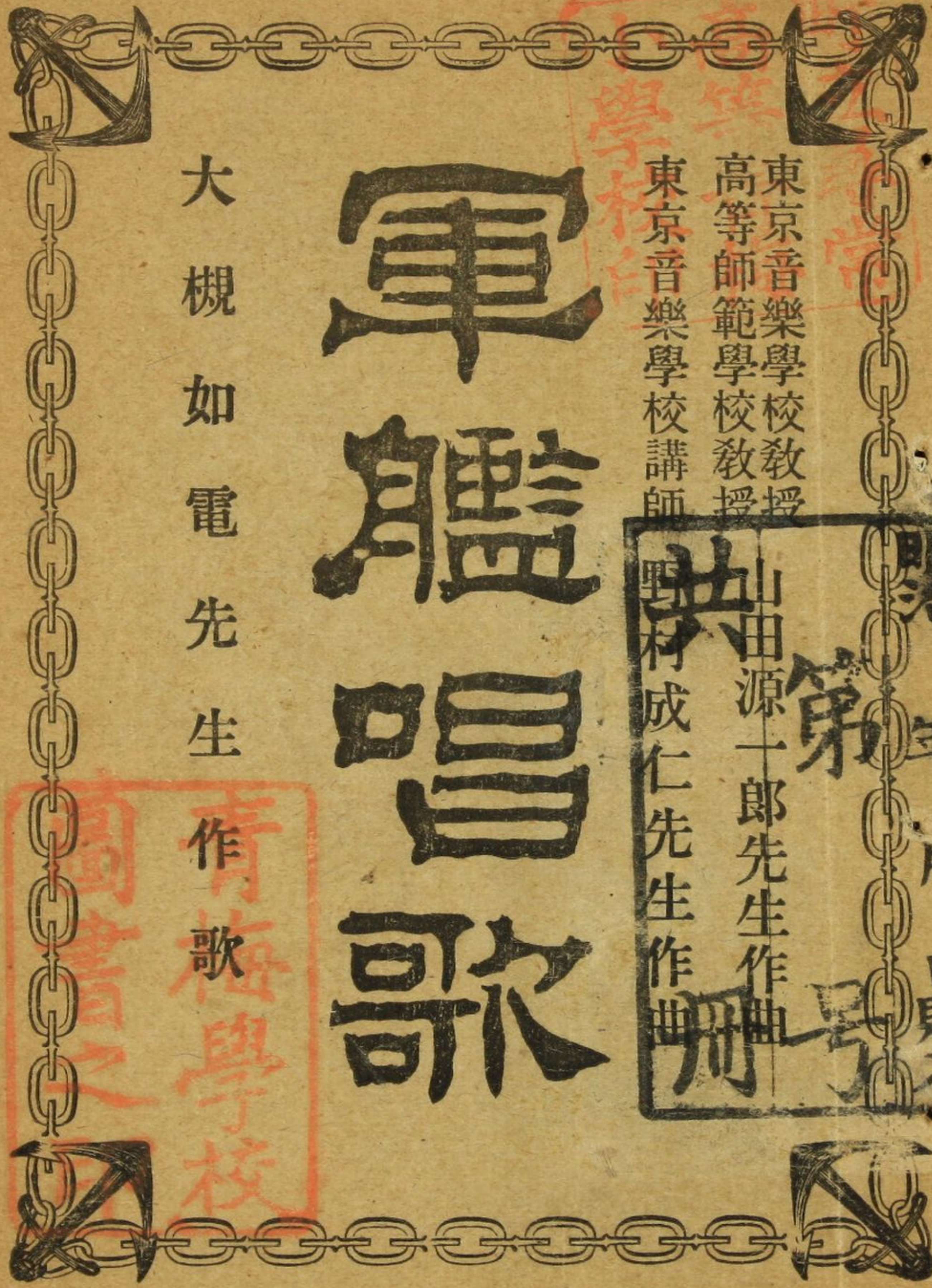
昭和

年

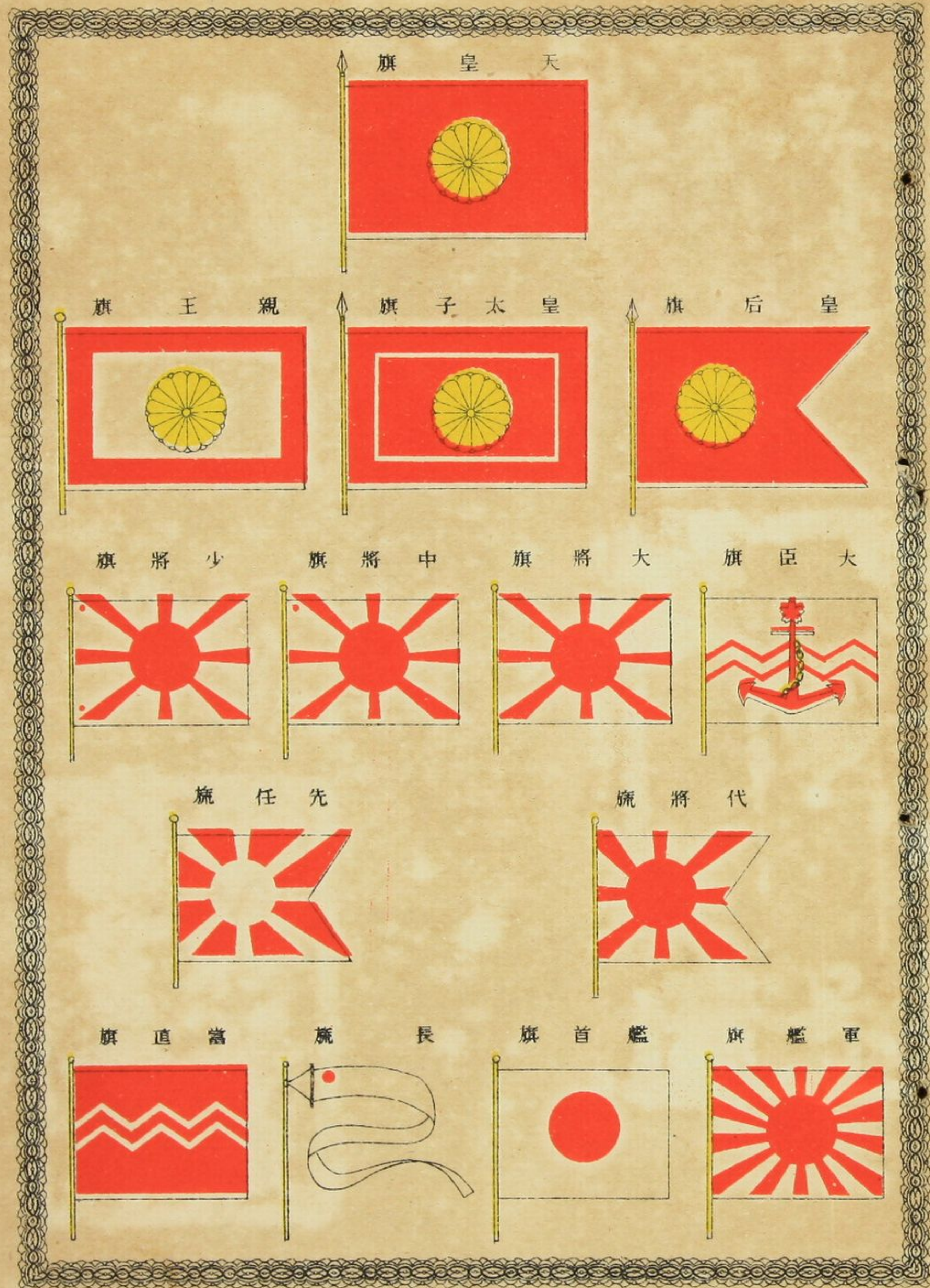
月

日

冊







軍艦唱歌

東京音樂學校教授
高等師範學校教授

山田源一郎先生作曲

東京音樂學校講師

野村成仁先生作曲

大槻如電先生作歌

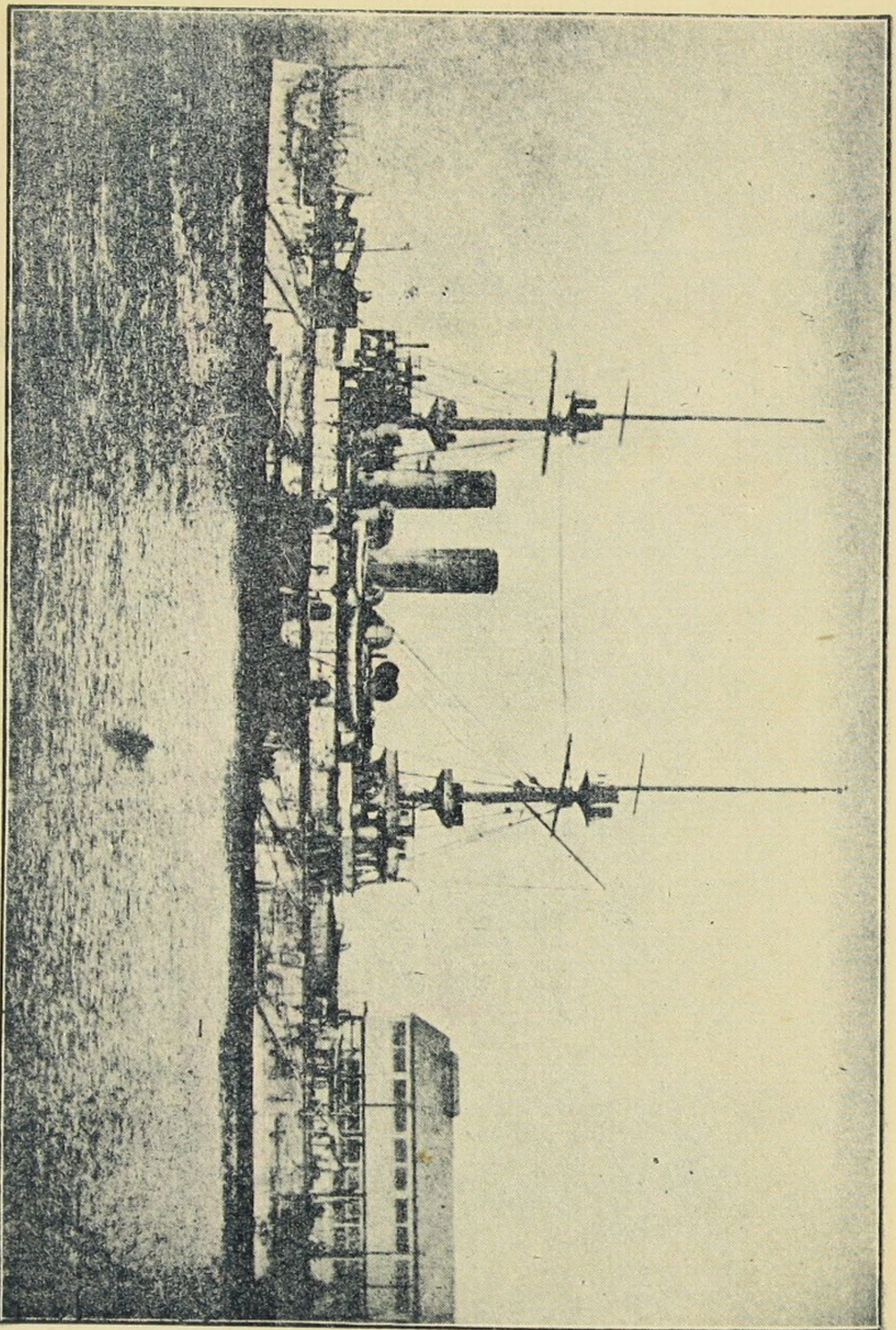


大 尉 破 雷 次 主 井 澤

軍 艦 副 艦

東京音樂學科 編 裡 林 勉 二 次 主 井 澤

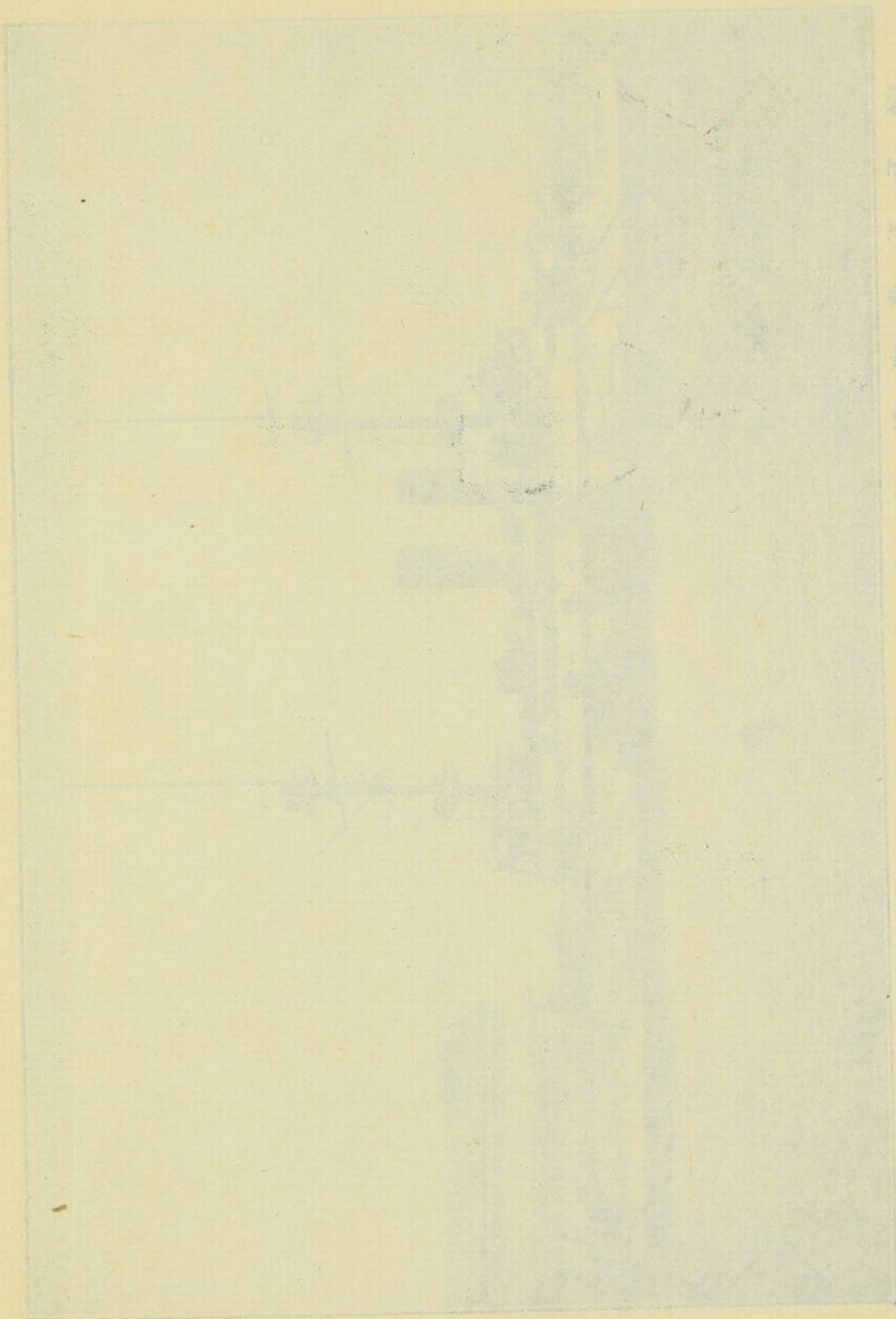
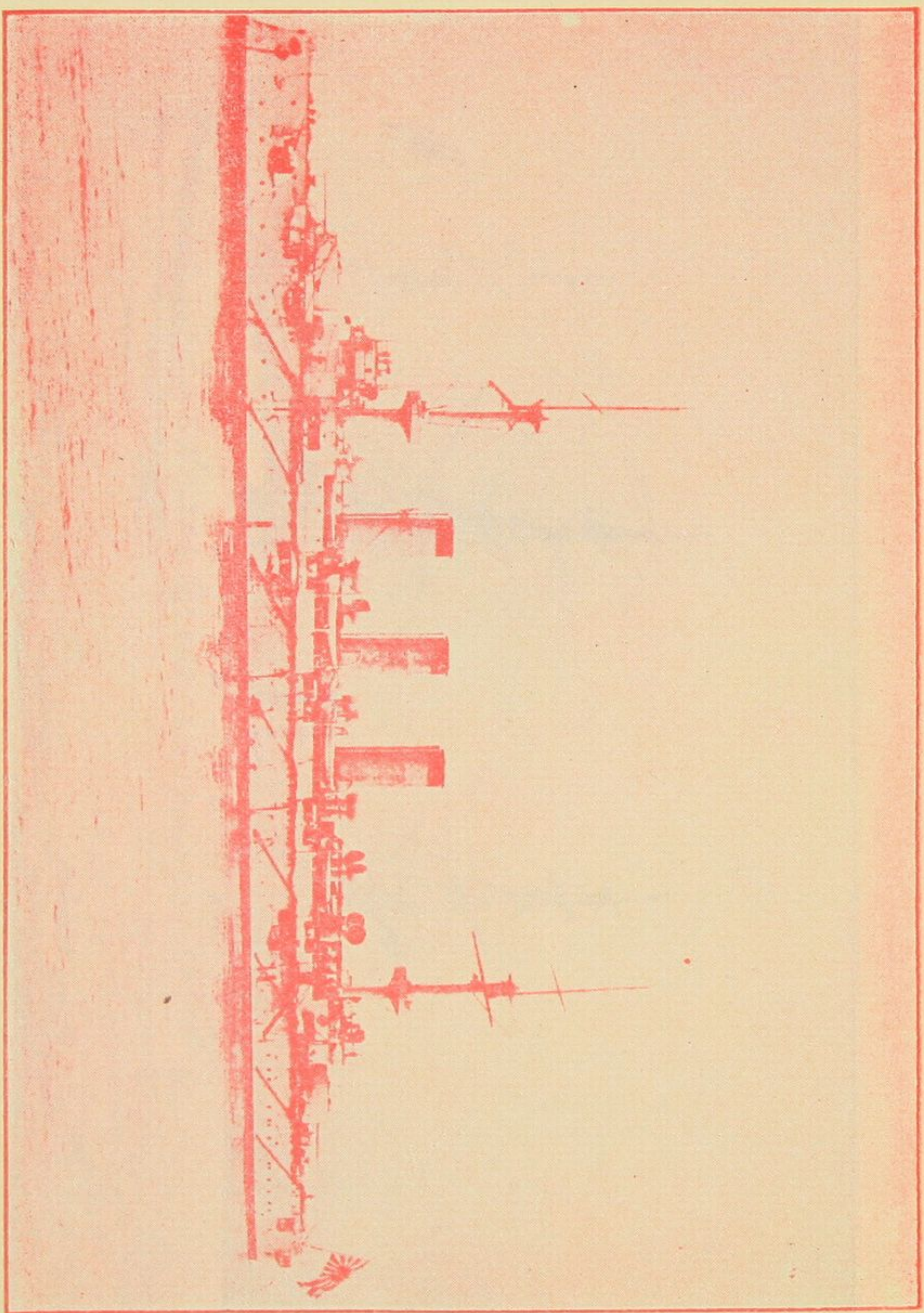
高等船舶學科 編 山 田 誠 一 次 主 井 澤
東京音樂學科 編



(築地原田印刷所印行)

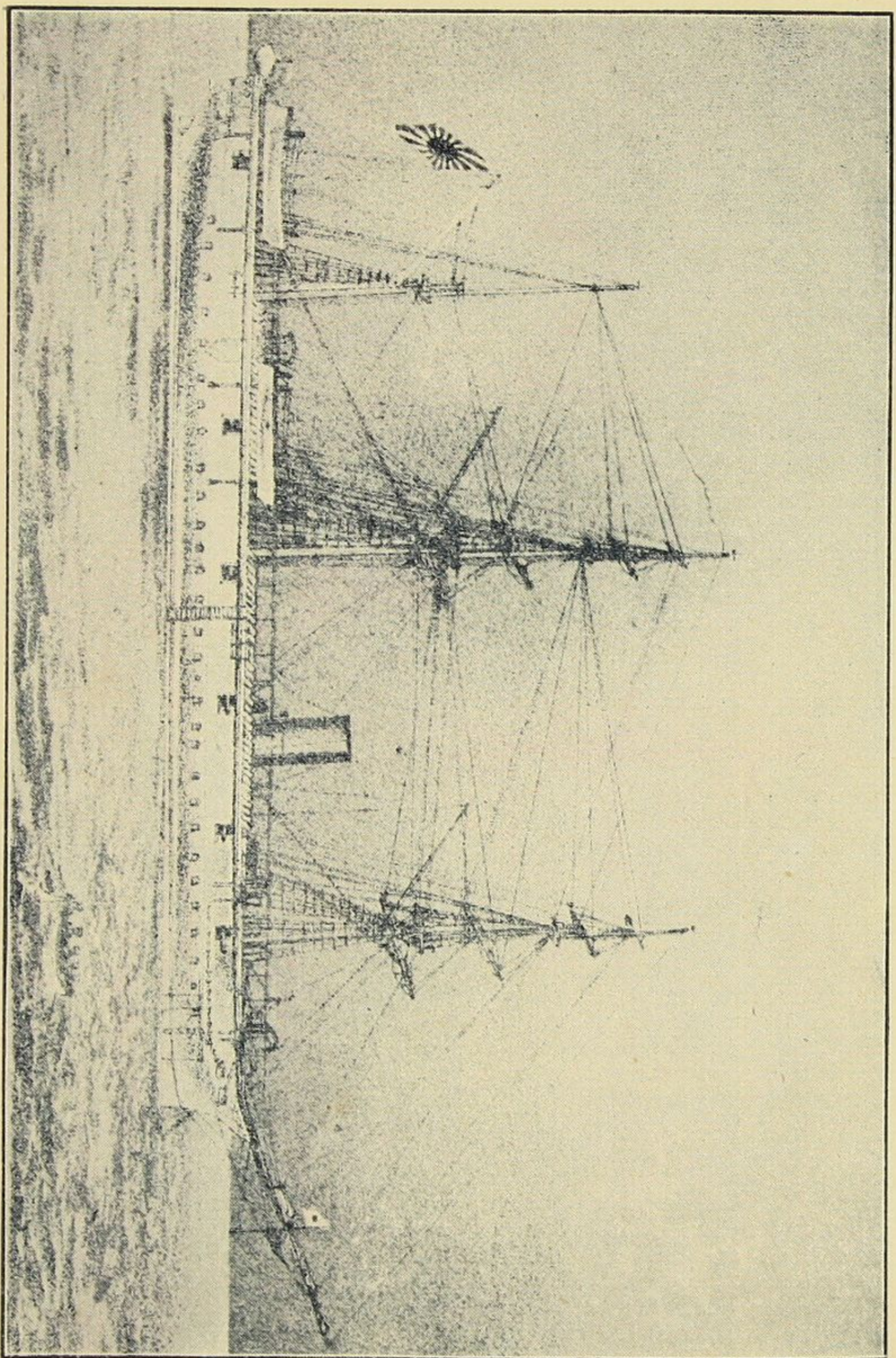
噸 千 五 萬 壹 數 噸 (中 海 航) 號 日 朝 艦 團 戰 第 一

壹等巡洋艦八雲號噸數壹萬貳千噸



第一等巡洋艦八雲號噸數壹萬貳千噸

(此圖係根據海軍省資料)

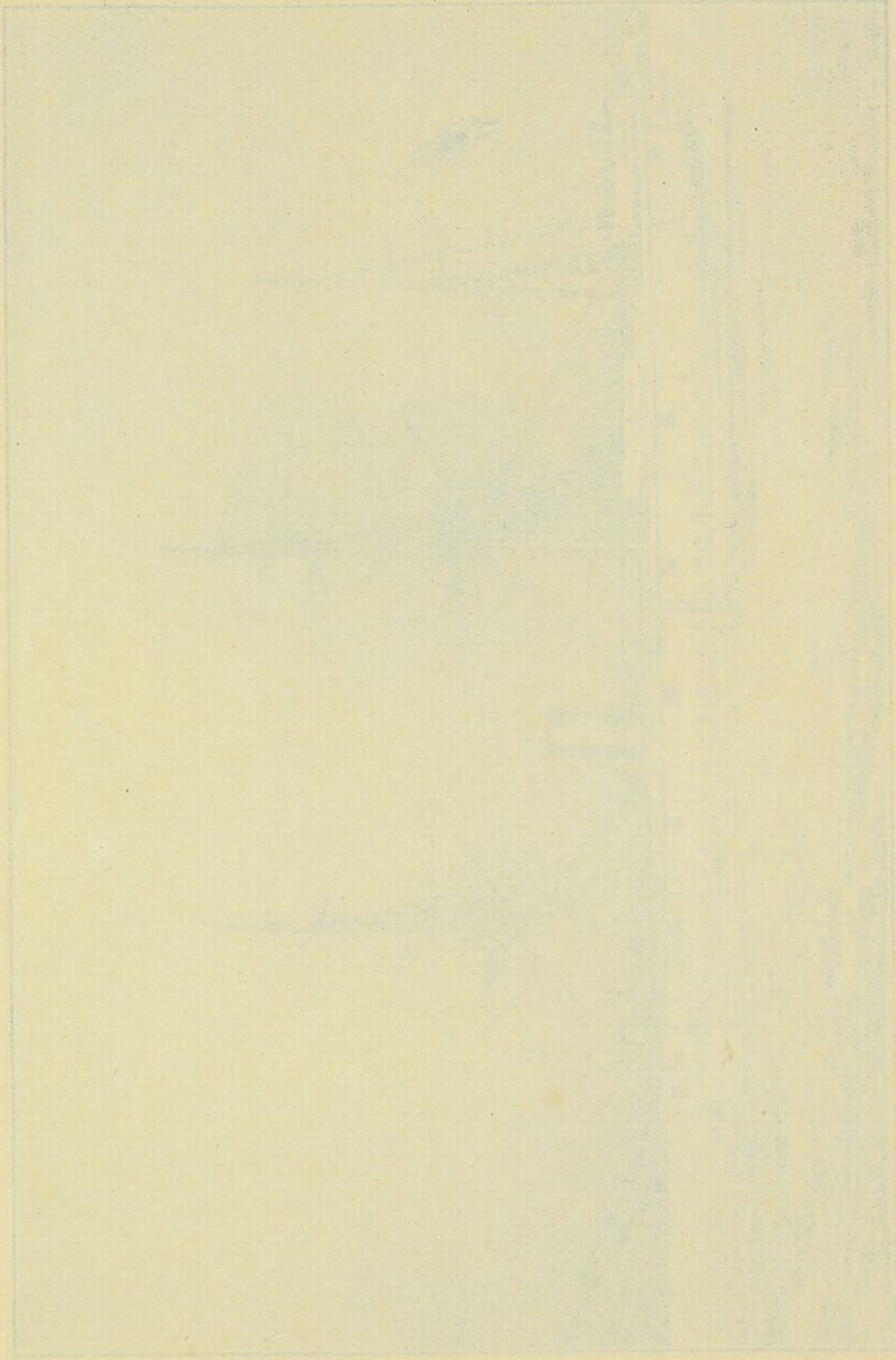
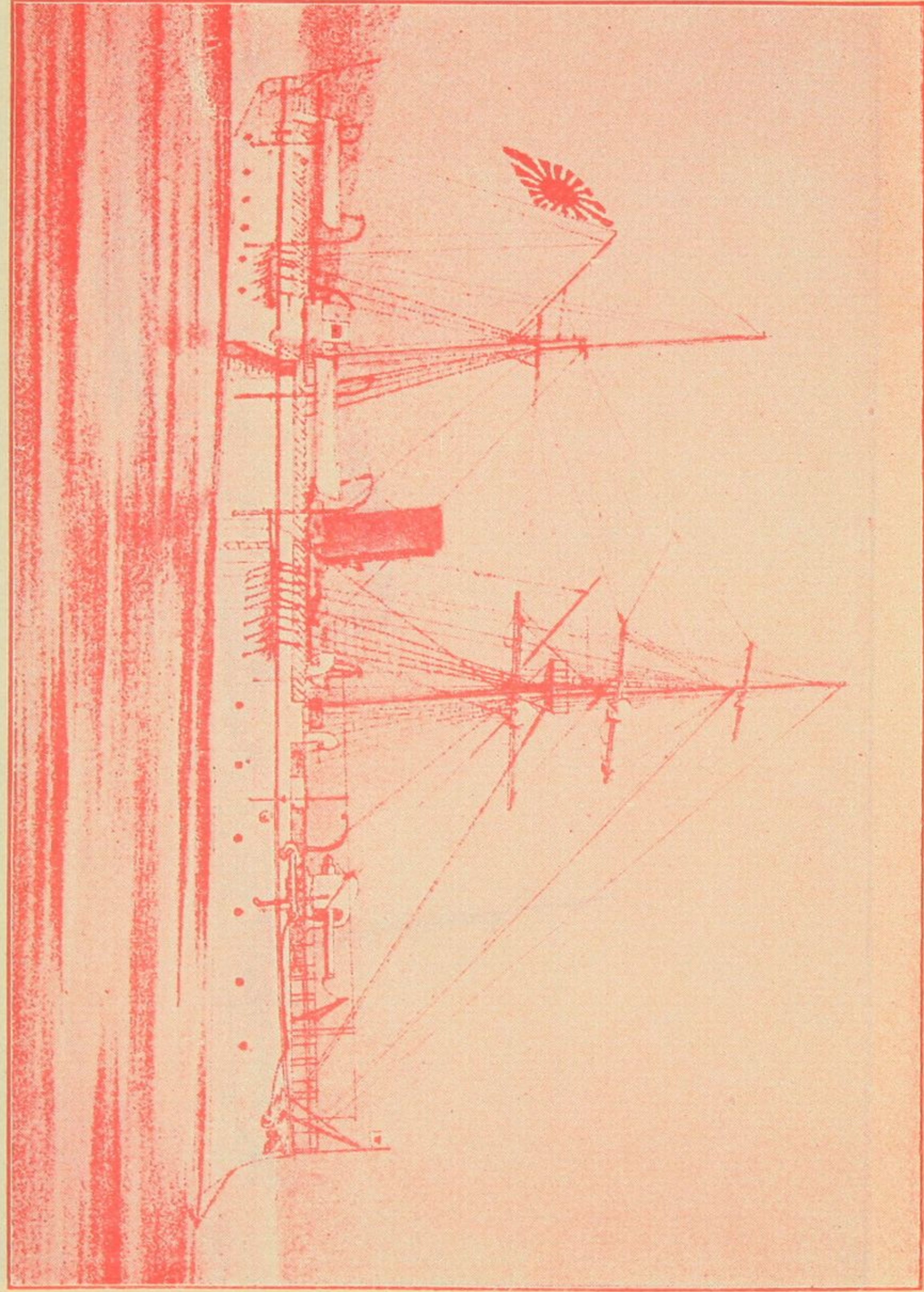


海防艦比叻號噸數貳千八百八十四噸

海防艦比叻號噸數貳千八百八十四噸

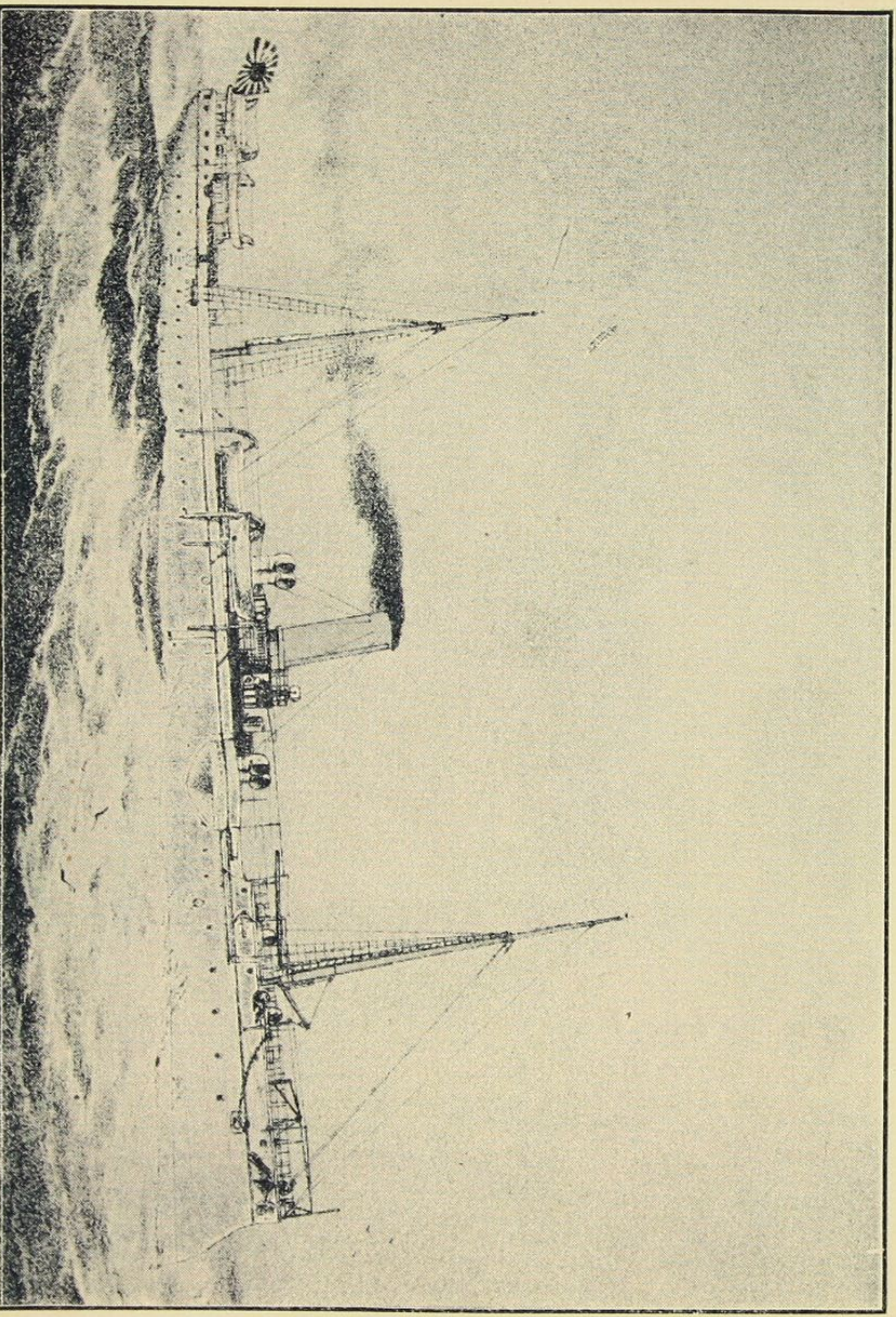
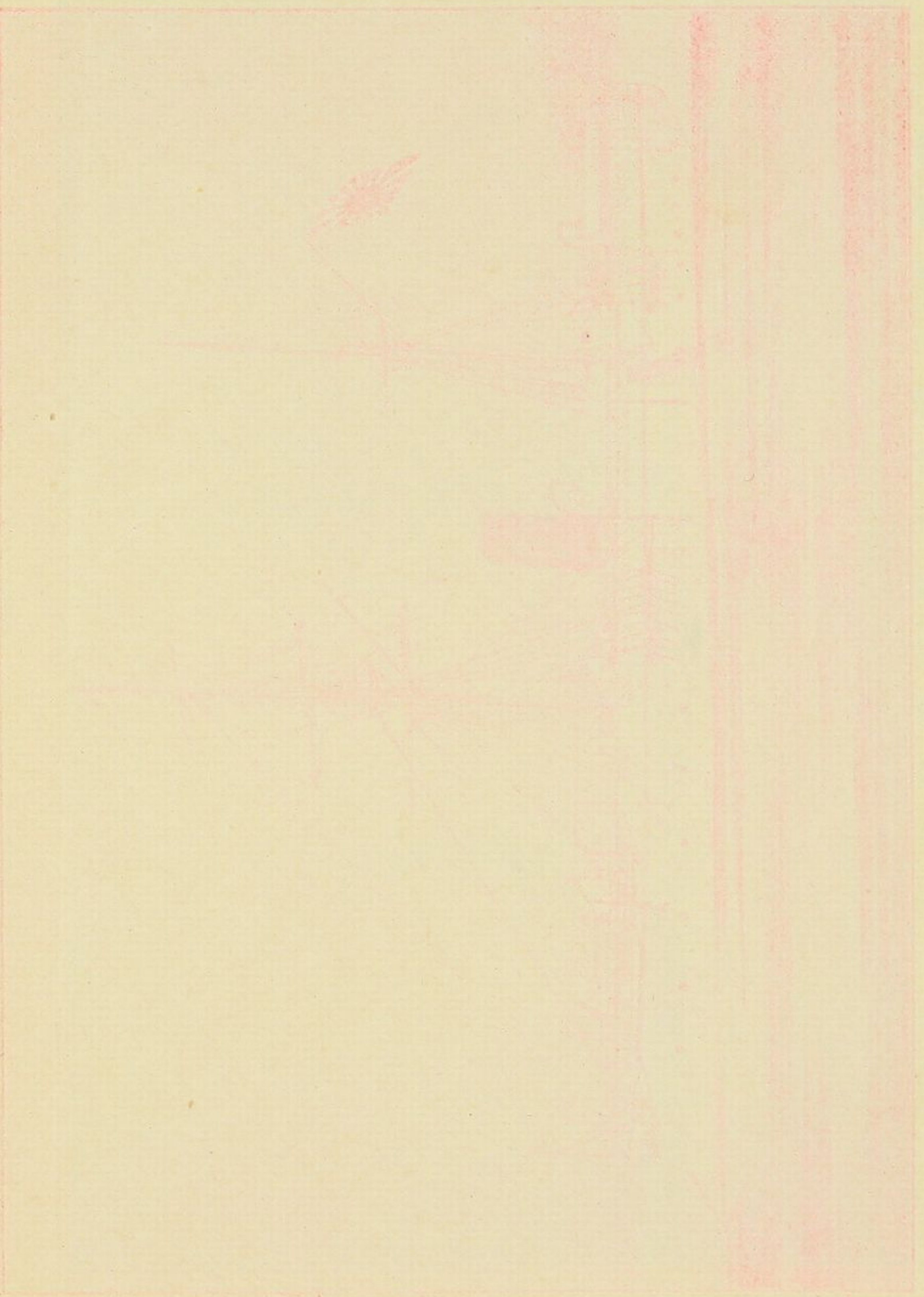
比叻號

噸 二 十 二 百 六 數 噸 號 岩 愛 艦 砲



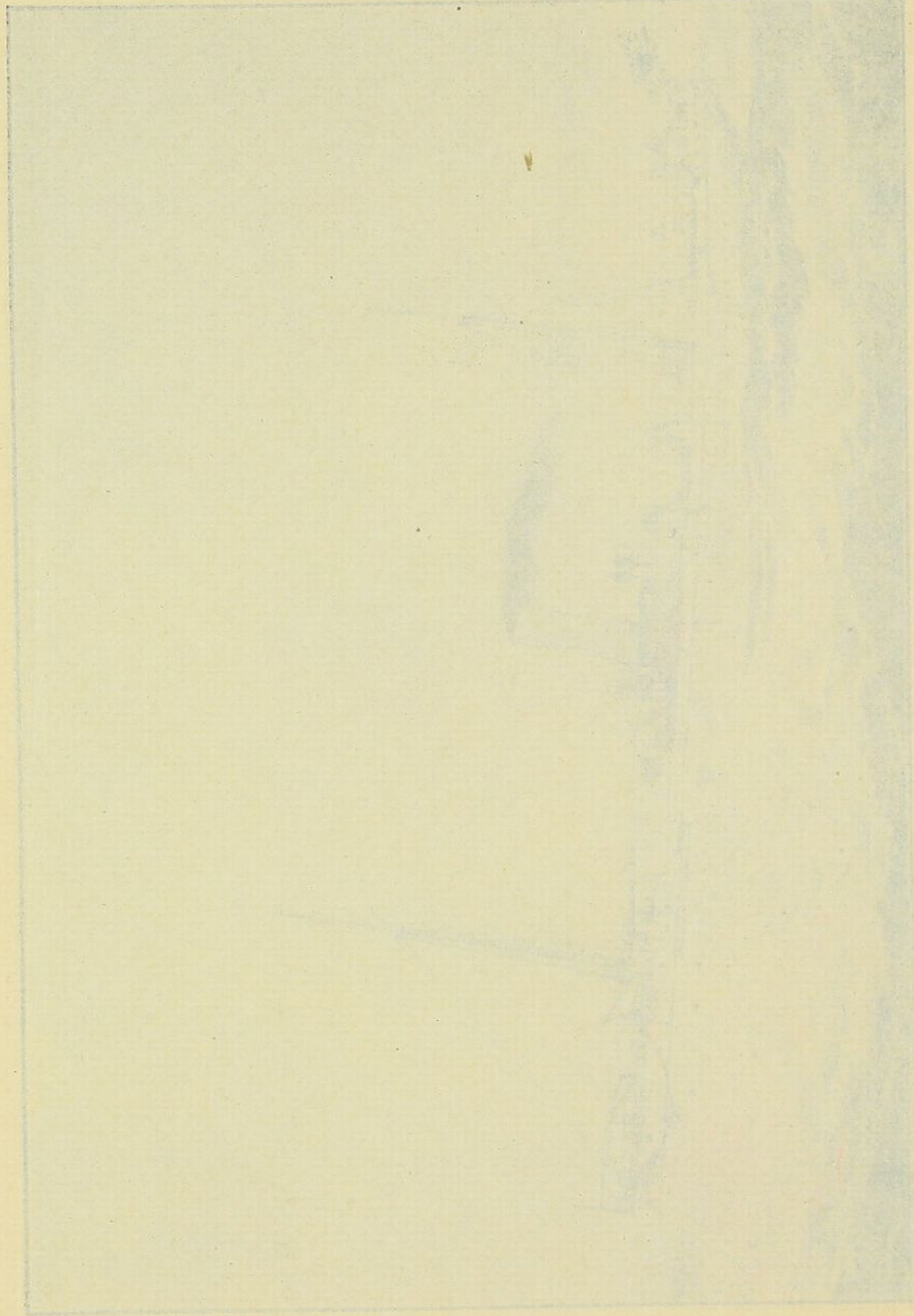
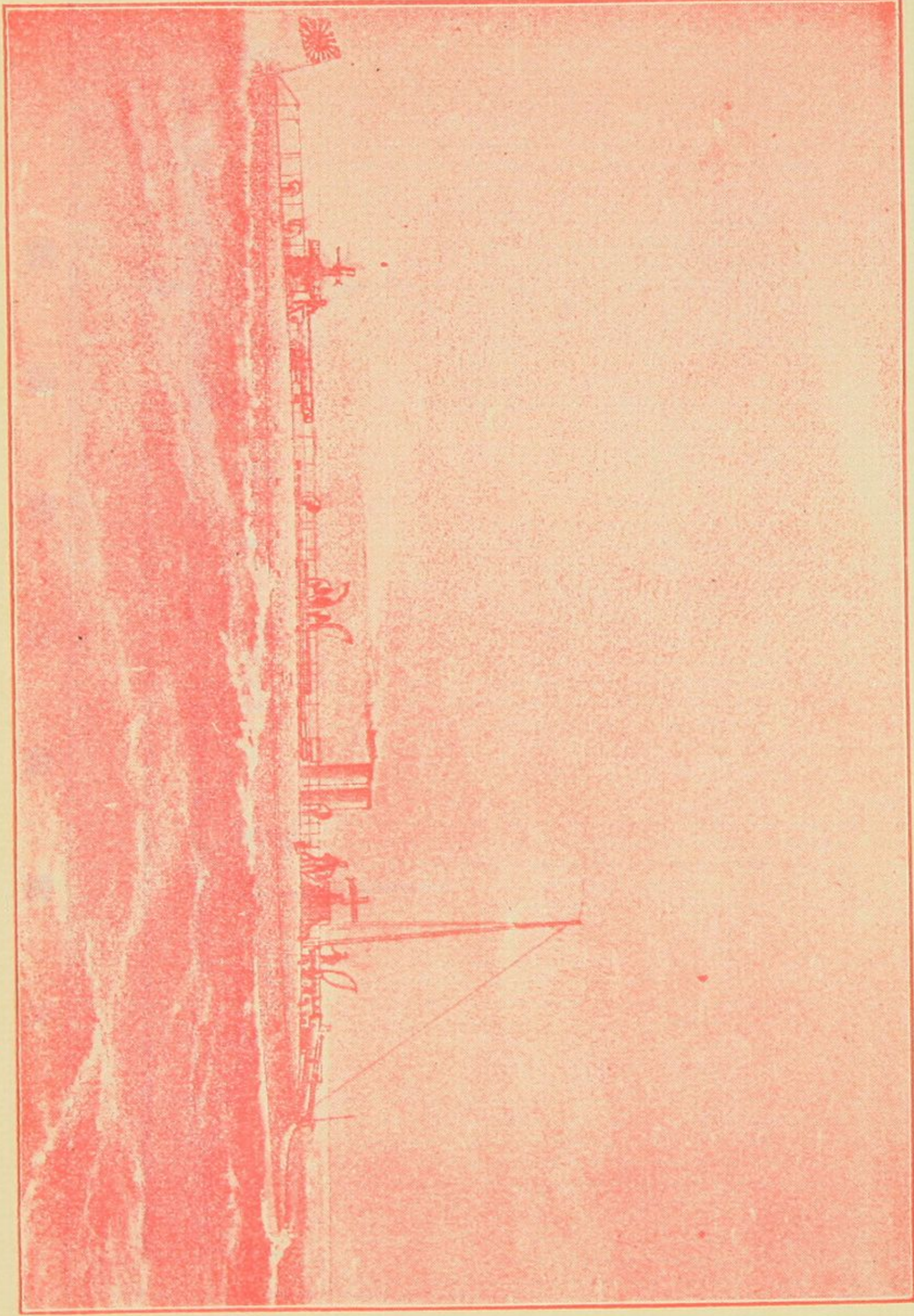
噸 二 十 二 百 六 數 噸 號 岩 愛 艦 砲

報知八重山噸數壹千六百〇九噸



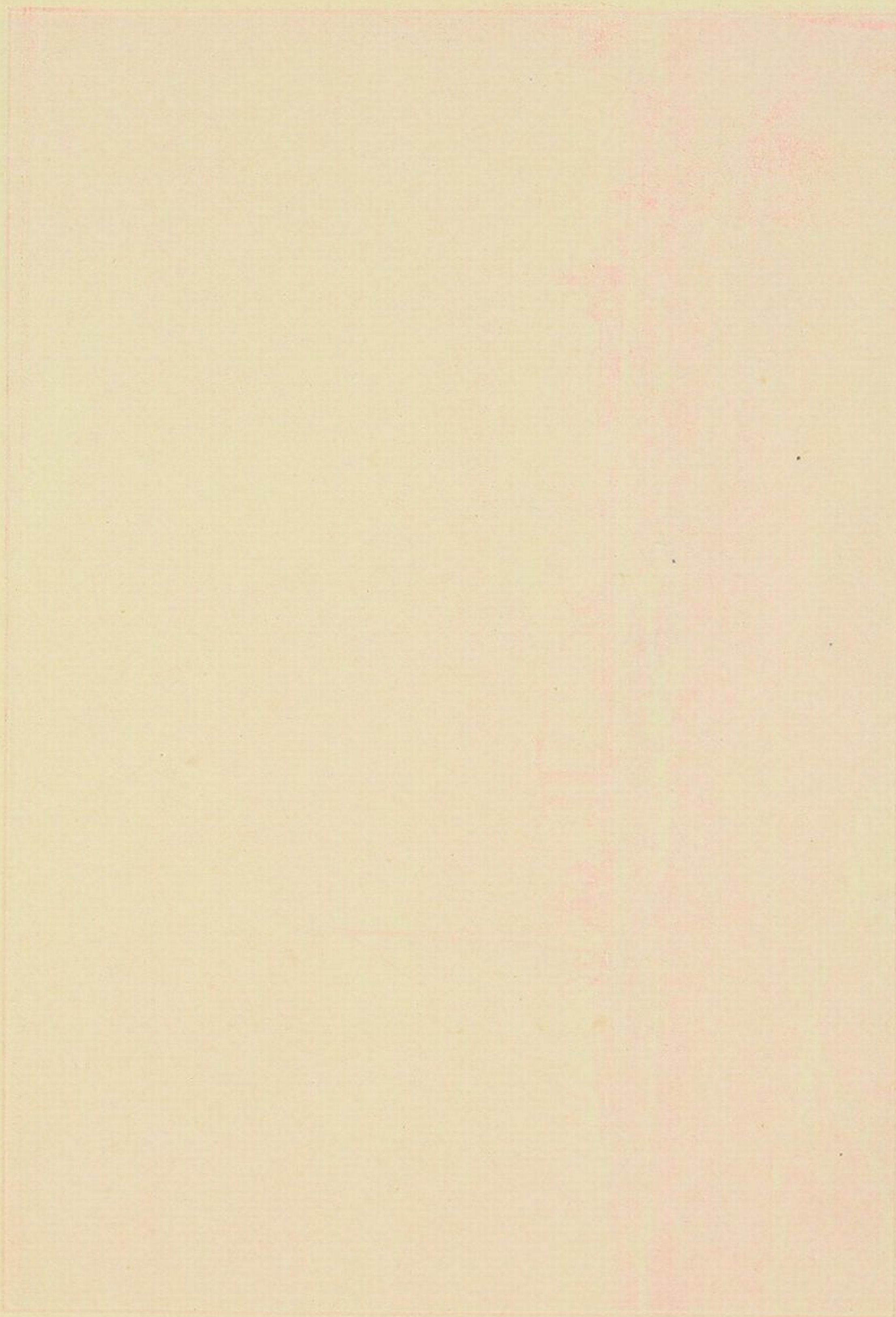
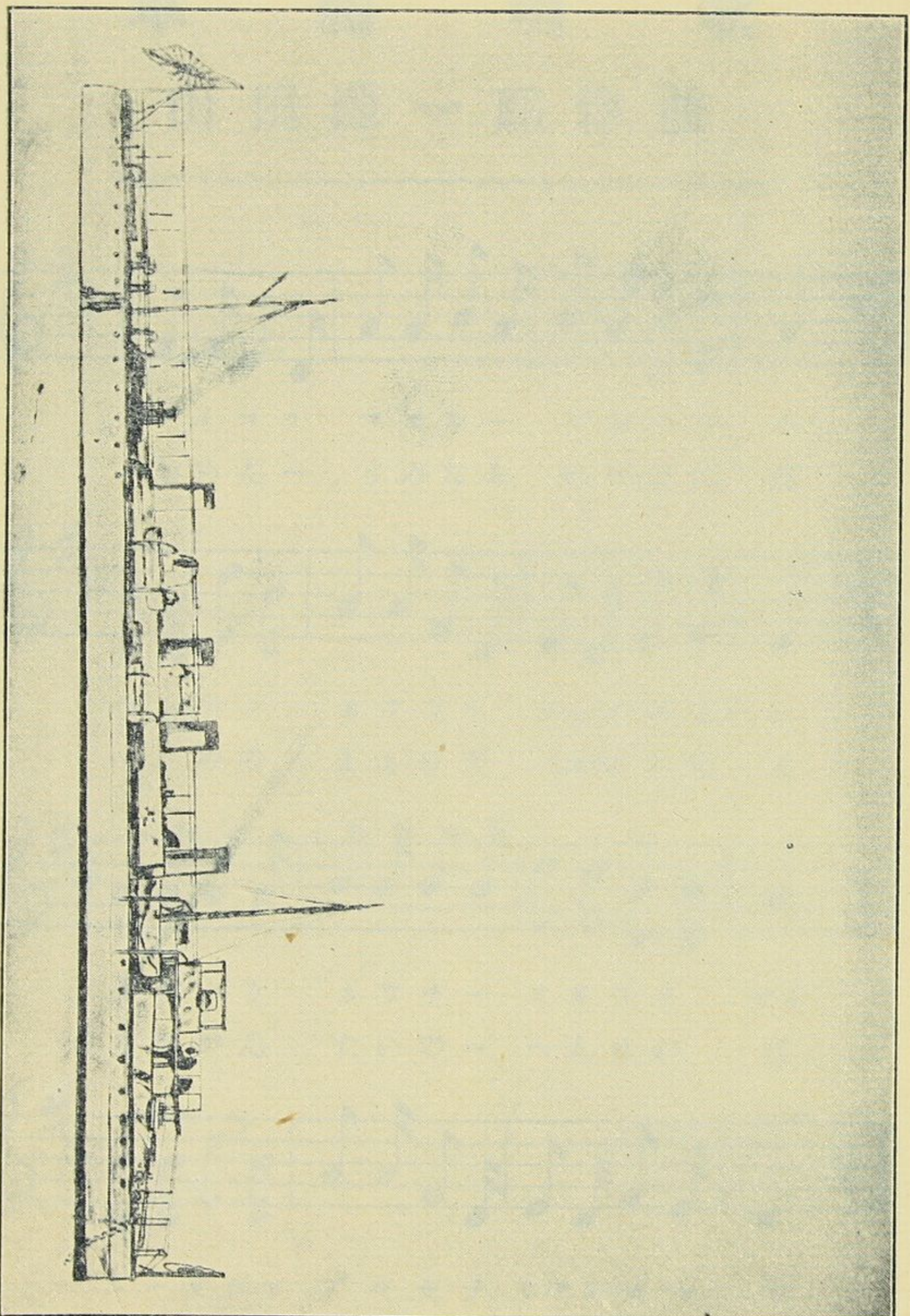
報知八重山噸數壹千六百〇九噸

水雷艇小畫說



海軍部人重山編繪會千六百〇水師

水雷艇逐號艦號

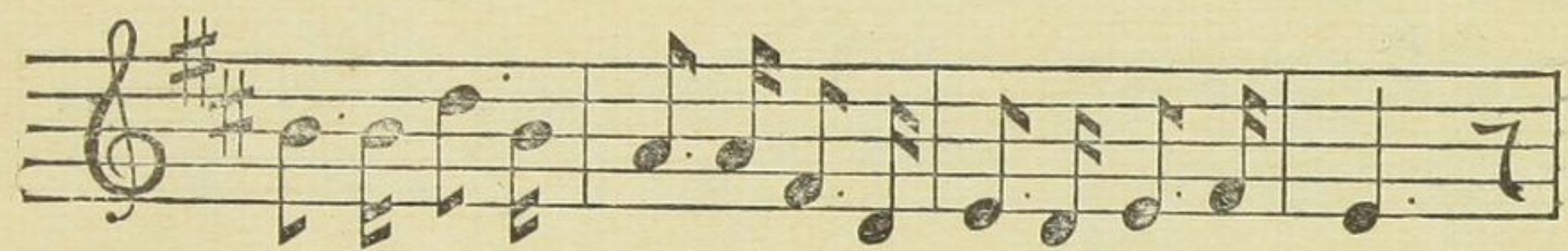


軍艦唱歌

山田源一郎作曲



テイヨク マモルー グンカン ハ
しめんー うみなる わがくに は



センカン ホウカン ジュンヨカ ン
うーみの まもりぞ しゅにうなる



カイバウ ホウチー ス井ライ テイ
そのかん たいのー へんせい は



ロークシユ アハセテヒヤクヨソ ウ
じやうちりんじのしやべつあり

軍艦唱歌

野村成仁作曲



テイコク マモルー グンカン ハ
しーめん うみなる わがくに は



センカン ホウカン シュンヨカ ン
うーみの まもりぞ しゆわうな る



カイバウ ホウチー ス井 ライ タイ
そのかん たいのー へん せい は



ロクシュー アハセ テ ヒヤクヨソ ウ
じょうちーりんじ の しゃべつあ り

軍艦六種

艦隊

1 帝國守る軍艦は

戦艦砲艦巡洋艦

海防報知水雷艇

六種合せて百餘艘

2 四面海なる我國は

海の守ぞ主要なる

その艦隊の編成は

常置臨時の差別あり

鎮守府

3

沿海千里を五軍區に

分て鎮守府置れたり

横須賀

横須賀鎮守府第一ぞ

管區は太平洋の岸

4

北は陸中西はまた

紀伊の熊野にわたるなり

南は伊豆の七島や

沖の島根の小笠原

吳

5

第二は安藝の吳みなと

四國を中に西日向

東は紀州瀬戸内の

赤馬關や友が島

6

佐賀と鳴門と四海峽

鎮守の管區たごそかに

第三軍區は九州島

肥前の佐世保に鎮府あり

佐世保

7 北きたは對馬つしまにみんなみは

沖繩おきな諸島しよたうその所管しよくわん

むかふ彼方かなたは支那しなの海うみ

臺灣たいわん澎湖ぼうこいと近ちかし

8 日本にっぽん海の沿岸えんがんは

山陰さんいん北陸ほくろく兩羽りやうまで

第四鎮府だいしちんぷの軍區ぐんくなり

鎮所ちんしよは丹後たんごの舞鶴まいづるぞ

9 遙はるかに望のぞむ向う地ちは

露西亞ろしあ領ありやうなる沿海州えんかいしゆ

西にしにまはれば朝鮮てうせんや

北きたは樺太かばふさカムチャツカ

10 第五だいごは陸奥むつより北海道ほつかいどう

全島ぜんさう海岸かいがん千島ちしままで

室蘭港むろらんこうに鎮守府ちんじゆふを

定さだめたまはん事ことを聞きく

戰團艦

11 戰團艦は海軍の

主腦力にてさむらふぞ

敵を破るの力こそ

自ら守るの力なれ

姊妹艦

12 艦に姊妹といふことは

艦體速力頓數も

同じき様に造りたて

同じ動作せんためぞ

朝日敷島

13 朝日かやく敷嶋や

やまこ心をあらはせる

一等戰艦速力は

十八海里はしるなり

14 初瀬は紅葉にしきして

三笠の月もさねわたる

姊妹四艦の頓數は

各一萬五千なり

15 富士は高根の動きなく

安きに置ける大八島

これ 大君の御心より

造りたまひし戦艦

16 長さ三百七十尺

排水一萬二千噸

同じ形體の番ひよく

備ふる砲門三十八

17 二等戦艦鎮遠は

これこそ支那の旗艦なれ

十九年前獨逸製

されど戦勝記念物

18 扶桑は夫れより猶ふるし

明治十年進水ぞ

こはいへ明治の御代となり

初めて造りし甲鐵艦

巡洋艦

19 本國はなれて遠洋に

出で、戦ふ巡洋艦

我の航路を保護して

敵の運輸を沮害せん

20 偵察報知も兼ねたれば

軍艦中に數多く

備ふる國こそ國の威を

四方へ張るのためしなれ

出雲

21 くも立のほる出雲艦

しぐれふるらし磐手艦

淺間

淺間の烟いつまでも

常盤

常盤かきはによも絶えじ

吾妻

22 吾妻こいへどめうこには

あらぬ八雲の姉妹は

八雲

新造船の氣も軽く

二十海里の劣りなき

笠置

千歳

松島 橋立 巖島

吉野 高砂

23 みさむらひこて笠置かさざきより

坂さかもこねなん千歳ちとせまで

國くにの杖つゑも柱はしらも

天あめが下したにぞたのみある

24 日本にっぽん三景さんけい松嶋まつしまや

あまの橋はし立たて巖いわ嶋しま

花はなは吉野よしのに高砂たかさごの

まつの操みさねこあねいもこ

高千穂

浪速

25 かけまくもいや高千穂たかちほを

海うみよりゆけば浪速なにはがた

かくてぞ八隅やすみしろしめす

稜威みいつを仰あふき命名なづけしや

26 以上いじょう九艘くそうは二等艦にとうかん

頓數とんすういづれも五千ごせんには

みたずあれども速力そくりきょくは

二十にじふ二海里にかいりはしるなり

秋津洲

千代田

27

秋津洲あきつしまは我國わがくにの

古名こめいなるぞよ千代田ちよだは

東あづまの京きょうの舊名きうめいぞ

國くにと都みやこと名なにしあふ

須磨
明石

28

須磨すまや明石あかしの浦波うらなみも

月つきがなければたゞの處ところ

其光そのひかりあるさかづきに

たゞふるみきの和泉艦いづみかん

和泉

海防艦

26

海岸防禦かいがんぼうぎよの艦ふねはみな

速力そくりよくよりも吃水きつすいを

浅く造りて自由じゆうゆく

浅瀬あさせ深瀬ふかせのごこまでも

比叡
金剛

30

比叡ひゑと金剛こんごう姉妹艦しまいかん

鐵骨てつこつ木皮ぼくひの英國いこく製せい

支那しなより獲えたる濟遠せいえんも

獨逸どいつ製せいにて防禦ぼうぎよ艦かん

濟遠

葛城 大和 武藏 高龍 天龍 海門 筑波

31

葛城大和武藏艦

日本製造あねいもこ

高雄天龍海門艦

同じものぞよ其他には

32

葉やま繁やま筑波艦

木もて造りしコルヘツト

五十年前印度製

是よりふるき船はなし

砲艦

愛宕 摩耶 鳥海 赤城

33

戦闘艦にさし副ひて

敵の艦隊砲臺を

打て砕かん砲艦は

備ふる大砲いさましや

34

愛宕と摩耶は畿内

鳥海赤城は東國なり

共に名高き山の名を

姉妹四艦に命名たり

天城 大島 磐城

筑紫

35 天城も山の名大嶋は

煙たつ名よ磐城と

七艦ともに我國で

造り立たる砲艦ぞ

36 外に筑紫の一艘は

扶桑につきしふるき船

英國製の鋼鐵も

二十歳をすぎしこの波

平遠 操江 鎮中 鎮邊 鎮東 鎮西 鎮南 鎮北

37 支那より獲たる砲艦は

大小八艘その中に

平遠號は二千噸

操江號は六百噸

38 鎮中鎮邊鎮の字は

東西南北すへて六つ

四百餘噸に速力も

八九海里に過ぎはせじ

報知艦

39 速力快捷波の上

縦横無盡にはせまはる

これぞ報知の艦の用

數門の輕砲のするのみ

40 されば形は狭長く

艦隊傳令輕敏に

敵地の動靜精密に

急を告ぐるぞ本務なる

千早

41 千早は其名の如くにて

はしる海里は二十一

宮古八重山

宮古八重山これにつき

あらしき波間もものゝかは

龍田

42 龍田は錦なかつたゝん

八重の潮路の浪の花

旭日かゝやく東洋は

からくれなぬに水くゝる

水雷艇

母艦

豊橋

魚形水雷

水雷駆逐

43 水雷艇は水雷を

載せて又載す母艦あり

豊橋ここそ名づけたれ

水になるかみ魚のなり

44 空ゆく鳥の飛ぶ如く

攻むれば防くもの、具に

水雷駆逐の艇もてき

氣象の變化見る如し

水雷艇

小鷹

白鷹

隼

鵠

眞鶴

福龍

千鳥

45 能ある小鷹白鷹や

隼はやく鵠の

はしは眞鶴ふく龍の

影にちりくたつ千鳥

46 舟を造りし其始め

水に柳の故事を

今見る如く小艇は

二十八葉うかべたり

同驅逐艇

夕霧

隴

叢雲

電

不知火

陽炎

雷

曙

霓

東雲

薄雲

漣

47

夕霧ゆふぎり

こめておぼろよ隴夜も

いつか

叢雲むらぐも電いなづまや

目めには見みゆれどしらぬひ不知火の

手てには取とられずかげらふ陽炎の

48

雷いかづちの音こゝろとあけぼの曙の

霓にじははかなく消き失うせて

東雲しのめあかし薄雲うすぐもの

漣さいなみうつつあさひす旭日ひかげ

明治三十三年九月廿五日印刷
明治三十三年十月一日發行

定價金六錢

著作權
所有

著者 大槻如電

作曲者 山田源一郎

作曲者 野村成仁

印刷者兼 今關榮藏

東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行所

東京市京橋區
南傳馬町二丁目

秀英舍

關西賣捌所

大阪市東區
備後町四丁目

吉岡書店